

10 都民参加と協働

1 概要

東京 2020 大会に向けて、大会開催までのカウントダウンイベントや「都市 鉦山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」など、多くの都民が参加できる多種多様なプログラムを東京 2020 組織委員会等との連携により展開するとともに、シティドレッシング*等により開催都市の雰囲気を出することで、大会の開催気運を醸成する。

また、都内区市町村の取組を支援し、都民にとって身近な地域から大会を盛り上げ、都内全域で都民が大会と関わるができる機会を創出するなど、「オール東京」で大会を成功に導く。

2 レガシーの概要

都内区市町村との緊密な連携により、都内全域で都民が参加できる様々な機会が創出されるなど、東京 2020 大会が「オール東京」の盛り上がりによって成功する。

また、都民が大会とつながりを持ち、都民とともに大会を創りあげることで、かけがえのない感動と記憶が都民一人ひとりの中に残され、心のレガシーとして永く次代に引き継がれる。

さらに、身近な地域で参加できる機会の創出により、地域の一体感が醸成され、コミュニティが活性化するとともに、事前キャンプ*を通じて、国際交流の促進につながる。

利害関係者	東京 2020 組織委員会、地方公共団体、民間企業、教育機関、競技団体 等
種別	参加・協働
地理的範囲	日本全国
期間	長期
実施主体	東京都
根拠	立候補ファイル、2020 年に向けた実行プラン、「未来の東京」戦略
関連する SDGs	10-不平等、17-実施手段

3 詳細な説明

(1) 背景

戦後復興の象徴とされた 1964 年の東京大会は、日本中に大きな感動をもたらし、今なお、多くの人々の記憶に残り、永く語り継がれる大会となった。

東京で 2 回目の開催となる東京 2020 大会を、人々の心に深く残り続ける歴史的な大会とするためには、都民一人ひとりが大会と関わり、大会成功の担い手となってもらい、「オール東京」で大会を盛り上げていく必要がある。

(2) 時期

2014 年度	カウントダウンイベントの実施（オリンピック 2020 日前、パラリンピック 2000 日前）
2015 年度	カウントダウンイベントの実施（5 年前）
	東京都パラリンピック体験プログラム「NO LIMITS CHALLENGE」を開始 ※競技体験、パネル・用具等の展示、アスリートのトークショーなどを通して、パラリンピックの魅力を体感できるプログラムを都内各地で実施
2016 年度	東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会公式エンブレム決定
	カウントダウンイベントの実施（4 年前）
	リオ 2016 大会期間中に都内等でライブサイト*を実施
	東京 2020 オリンピック・パラリンピックフラッグツアール*を開始
	「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」都庁舎での回収開始
	「東京 事前キャンプガイド～for2020」を開設
2017 年度	カウントダウンイベントの実施（3 年前、1000 日前）
	平昌 2018 冬季大会期間中に都内等でライブサイトを実施
	東京 2020 マスコットデザイン決定
	「みんなでラジオ体操プロジェクト」開始
2018 年度	カウントダウンイベントの実施（2 年前、500 日前）
	東京都聖火リレー実行委員会の設立
2019 年度	カウントダウンイベントの実施（1 年前、半年前）
	東京 2020 オリンピック聖火リレーリハーサルを実施
2021 年度	カウントダウンイベントの実施（100 日前）

(3) 実施主体

東京都

(4) 実施方法

- 組織委員会等と連携し、カウントダウンイベント、都内全区市町村や全国を巡回するフラッグツアー等を通じて、オールジャパンでの開催気運を盛り上げる。
- 都内 62 区市町村を巡回する聖火リレーの実施に向けた準備や事前キャンプ誘致に向けたPR等の支援、全国で実施されるイベントなどで東京 2020 マスコットやオリンピック・パラリンピック旗等を活用した取組を展開する。

<東京 2020 オリンピック 1 年前セレモニー>



<東京 2020 パラリンピック 1 年前
カウントダウンセレモニー> [1]



<フラッグツアー (小笠原村)> [2]



<東京 2020 マスコット>



<オリンピック聖火リレー>
東京都：7/9～7/23



<パラリンピック聖火リレー>
東京都：8/20～8/24



[1] 「未来の東京」戦略ビジョン (東京都)

[2] 2020 年に向けた東京都の取組—大会後のレガシーを見据えて— (東京都)

- 大会の祝祭の雰囲気盛り上げるとともに、開催都市の魅力を世界に発信するため、ラストマイル*、空港、主要駅などの統一的なデザイン装飾を行うシティドレッシング及びオリンピック・パラリンピックシンボルなど大規模展示物を設置し、東京を訪れる人々へのおもてなしの雰囲気を創出する。
- 区市町村が実施する大会関連事業やレガシー設置物に対して補助を行うなど、大会開催に向けた区市町村支援を拡充し、オール東京での開催気運を醸成する。
- 東京 2020 大会で使用する約 5,000 個のメダルを、全国各地から集めた小型家電等のリサイクル金属で製作する「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に組織委員会等と連携して取り組み、回収を実施するとともに、イベントや映像を活用してPRを進めることで、都民・国民参画による回収を加速し、大会開催気運を醸成した。
- 区市町村の主体的な取組を支援するとともに、「東京 2020 参画プログラム*」を活用し、幅広い人々の大会関連イベント等への参加を促すことで、都内全域の気運醸成を図り、大会を契機とした様々な取組を大会後も地域に根付かせる。

＜都庁舎での携帯電話等受付
10万個突破記念セレモニー＞^[3]



＜東京 2020 公認マーク＞



＜東京 2020 応援マーク＞



- 大会前後の変化や大会開催時の東京の姿を映像で記録し、発信するとともに、次世代に継承する。
- 東京都パラリンピック体験プログラム「NO LIMITS CHALLENGE」を展開し、パラリンピック競技の認知度向上と理解促進を図る。
- 区市町村など身近な地域においてパラスポーツの体験機会を創出する仕組みを検討する。
- パラスポーツの国際大会の開催支援やパラスポーツの応援プロジェクト「TEAM BEYOND*」により、競技のルールや見どころ等を学びながら多くの人と一緒に応援する機会を提供し、都民の観戦を促進する。

[3] 「未来の東京」戦略（東京都）

- 多摩地域をはじめとした都内の事前キャンプ候補地を、効果的かつ積極的に各国関係団体へPRした。
- 区市町村や企業、団体等と連携・協力し外国人おもてなし語学ボランティアを5万4千人育成した。今後もフォローアップセミナー等を開催し、育成したボランティアの気運の一層の促進を図っていく。
- 東京 2020 大会後には、日本代表選手団のメダリストを祝すとともに、大会を共に作りあげた国民・都民に対する感謝の意を表すイベントを実施し、多くの方々にかけてえのない感動と記憶をレガシーとして残す。

(5) 便益

外国人おもてなし語学ボランティアとしての活動や「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」への協力など、都民一人ひとりが様々な形で東京 2020 大会とつながりを持つことで、大会を自分たちの大会だと実感し、かけがえのない感動と記憶が心のレガシーとして残される。

また、聖火リレーや東京都パラリンピック体験プログラム「NO LIMITS CHALLENGE」、フラッグツアー等が都内各地で実施され、都民が身近な地域で様々なプログラムに参加することで、地域の一体感の醸成やコミュニティの活性化が進む。

さらに、事前キャンプを実施した国と区市町村との間において、継続的な国際交流が展開される。

4 事実と数字

都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト(都庁舎受付)	約 14.5 万個 [参考] 金・銀・銅あわせて約 5,000 個のメダルに必要な金属量を 100%回収 (全国)
ボランティアの裾野拡大・育成・活用 (外国人おもてなし語学ボランティアの育成)	累計約 54,000 人
東京都パラリンピック体験プログラム「NO LIMITS CHALLENGE」の実施	これまでに都内全区市町村で実施

(2020年3月までの実績)

5 用語説明

シティドレッシング	オリンピック・パラリンピック開催都市全体を一貫性のある外観で装飾すること
事前キャンプ	オリンピック・パラリンピックに参加する選手たちが、時差調整や気候順応のため大会前に任意に行うトレーニング。過去大会においては、開催都市だけでなく開催国各地、近隣国等で実施されている。
ライブサイト	競技会場外で、大画面による迫力ある生中継、ステージイベント、競技体験等を楽しむことができる、オリンピック・パラリンピック競技大会公式事業のこと
東京 2020 オリンピック・パラリンピックフラッグツアー	オリンピックフラッグ・パラリンピックフラッグを活用し、オール東京、オールジャパンの気運を盛り上げるため、都内 62 区市町村及び被災地を皮切りに、全国で展開した事業
ラストマイル	競技会場周辺の観客利用想定駅と競技会場出入口とを結ぶ観客が徒歩で歩行するルート及び、観客シャトルバスの乗降場を設置する場合には、観客利用想定駅・競技会場出入口と乗降場との間の徒歩ルート
東京 2020 参画プログラム	オリンピック・パラリンピック・ムーブメントへの参加促進や、レガシー創出に向けたアクションの促進を目的として、組織委員会が実施するプログラム。様々な組織・団体が、東京 2020 大会に向けて実施するイベントや事業を認証するものであり、「公認プログラム」と「応援プログラム」の 2 つの認証区分がある。
TEAM BEYOND	パラスポーツを応援する人を増やすため、2016 年度から展開している東京都のプロジェクト。スポーツをする人も、観る人も、支える人も、あらゆるメンバーが一つのチームとなって障害者スポーツを盛り上げていく。

6 参考文献

- ・2020年に向けた東京都の取組－大会後のレガシーを見据えて－（PR版）
- ・2020年に向けた東京都の取組－大会後のレガシーを見据えて－（本編）
- ・都民ファーストでつくる「新しい東京」～2020年に向けた実行プラン～
- ・「3つのシティ」の実現に向けた政策の強化（平成30年度）
- ・「3つのシティ」の実現に向けた政策の強化（2019年度）
- ・「3つのシティ」の実現に向けた政策の強化（2020年度）
- ・「未来の東京」戦略